

2021 年度 事業計画書



タンザニア TAHO AMUCTA 診療所 奨学生とその学友たち


JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 新年度の抱負	1
2. 中長期計画における位置付け.....	2
3. 海外諸活動	2
3-1 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	2
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー	3
(3) 短期	4
3-2 奨学金事業	4
3-3 協働プロジェクト (プロジェクト・りとる)	10
(1) SALT (次世代のための健康と衛生) プロジェクト カンボジア	10
(2) シロアムプロジェクト ケニア	10
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト タンザニア	11
3-4 災害救援復興支援.....	11
4. 国内諸活動	11
4-1 国際保健人材育成	12
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	12
4-3 マーケティング	14
5. 運営体制	16
5-1 社員総会	16
5-2 理事会	16
5-3 委員会	16
5-4 事務局	17

1. 新年度の抱負

コロナ禍の中でも

会長 畑野研太郎

新型コロナウイルス感染症の波はいまだに何時終息するのか予想できない。感染対策のために、社会の活動が大きく変化せざるを得ない状況が続いている。日本国内だけの問題ではない。他国を訪問することも困難である。国民と国民も、人と人も、孤立させられている。このような中で、今何ができるのだろうか。

チャンドラゴーナで同僚医師であった故マックフィールド氏は、ことあるごとに「神様の思し召し」と口にしていた。イスラム教を信じる人々は、同じ意味で「インシャーラー」という。「明日会えますか」と問うたときに、「インシャーラー」と答えられると少し心もとなく感じたものである。しかし、確かにすべては神のご意思のもとである。

新型コロナウイルス感染症がなぜ世界を席卷しているのかという問いには、地球温暖化と同じく、人間の傲慢や食欲のゆえであると答えるにしても、新型コロナゆえに多くの苦しみや悲しみがあることは承知で付け加えれば、これも神のご意思を離れては起こりえないものである。神のご意思であるならば、私たちはその出来事の中に指し示される道を見出さなくてはならない。

2021年には、バングラデシュの岩本直美ワーカーが、ラルシュの規定によりコミュニティリーダーを終了して帰国される。感謝をもって迎えたい。一時帰国中の雨宮春子ワーカーは、できる限りの安全を考慮しつつ、タンザニアに再赴任される予定である。一時帰国中にもコロナによる医療崩壊を防ぐためにお働きいただいたことを感謝し、現地でのお働きに主の導きがありますようにと祈り続けたい。不可能に思えるこんな時だからこそ、新たなワーカーが与えられるように祈りを強めたい。

2020年度から予算を増額した奨学金事業は、現地訪問は不可能ながら、粛々と続けて、現地で草の根の人々を守る医療に従事してくれるワーカーを生み出し続けたい。

協働プロジェクト事業も同様である。ケニアのプロジェクトは、コロナの困難な事情にかんがみて、1年延長を決定した。タンザニアの事業も、コロナ禍の下でもワーカーのリモート支援を受けつつ続けられているが、雨宮ワーカーの再赴任とともにさらに充実することを望みたい。

国内活動も大きな制限の中に置かれている。共に手を取り、顔と顔を合わせて働くことが難しい状況は2021年度も続くと思われる。コロナ禍の下の孤立化の中で、私たちに求められていることは二つあると考える。心を静めて神の前に座り、そのご意思を聴くこと。そして、祈りつつ「みんなで生きる」方策を探し求め、実際に始めること。私たちは、2021年度も試練の中にあり続けているが、試練の故にさらに強められると信じて歩みたい。

2. 中期計画における位置づけ

2021年度は5ヵ年計画2018の4年目となる。「取り残された一人ひとりを捜し、苦悩と喜びを分かち合う」というビジョンに向かい、活動を進めて行く。

国内諸活動においては、コロナ禍においても支え続けてくださっている支援者のような、JOCSの使命に強く共感していただける支援者を増やすための施策をとる。新型コロナウイルスの感染予防のために対面でおこなうことのできる活動は限られるが、対面に代わる様々なコミュニケーション方法を検討して進めていく。

海外諸活動においては、コロナ禍による活動の遅延を取り戻すように活動を進めると同時に、コロナ禍においても積極的に活動を展開した奨学金事業の確実な実施とモニタリングをおこなう。タンザニアは一時帰国したワーカーの現地帰任により、変更した計画に基づいて母子保健分野の活動を進める。ワーカーが長年活動をしてきたバングラデシュのラルシュ・マイメンシンでは、コミュニティリーダーの交代がスムーズにおこなわれるよう支援をする。

3. 海外諸活動

海外派遣事業ではバングラデシュでは運営責任移譲を開始し、タンザニアでは現地帰任により、一時休止していた活動を再開する。カンボジアの奨学生が新たに加わった奨学金事業は、各国ごとの方針に従い事業を展開する。協働プロジェクトはコロナ禍による遅延を取り戻すべく活動を進める。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは岩本ワーカーがラルシュ・マイメンシンのコミュニティリーダーの責任移譲をし帰国する。タンザニアでは、新型コロナウイルス感染防止のため一時帰国していた雨宮ワーカーが現地帰任し、聖ヨハネ・パウロ2世病院での活動を再開する。

また、引き続き将来のネパール、ウガンダへの派遣希望者を発掘する。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：L'Arche Mymensingh（ラルシュ・マイメンシン）

派遣期間：2019年12月～2021年9月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

1) リーダーシップ移行の準備を図る。

①職責と仕事内容を整理し、優先順位に応じて実施を図り、7月までに完了する。

- ②コミュニティリーダーの後任予定者の赴任前現地短期訪問を受け容れ、コミュニティメンバー、会計士そして理事たちとの対話を図る。
 - ③毎月一度、新コミュニティリーダーとコミュニティメンバーたちとのオンラインミーティングを実施し、関係づくりを図る。
 - ④新コミュニティリーダーの負担軽減を図るため、7月迄にシニアアシスタントたちへ適当な内容と量の仕事を移譲する。
 - ⑤新コミュニティリーダーとのコミュニケーションを支援するため、アシスタントたちの英語クラスを継続強化する。
 - ⑥新コミュニティリーダーの赴任までに会計士が一通りの職責を遂行できるよう、養成を強化する。
 - ⑦新コミュニティリーダーの生活上の必要を把握し、準備する。
- 2) リーダーシップの移譲を実施する。
- ①移譲期間中の予定を明確にし、コミュニティ内で共通理解を図る。
 - ②移譲内容の詳細について新コミュニティリーダー、コミュニティカウンスル、理事会、国際ラルシュと事前確認し、漏れがないようにする。
 - ③移譲を実施する。
 - ④関係者等に感謝を伝え、離任する。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)
 聖ヨハネ・パウロ 2 世病院

派遣期間：2019 年 1 月～2022 年 1 月

活動概要：ママ・ナ・ムトトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動。TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援をおこなう。

1) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

- ① TAHO 傘下にある、周産期を取り扱っている 8 つの保健医療施設に基礎調査の分析結果を報告し課題の認識を図る。
- ② TAHO 傘下の各保健医療施設で、母子保健関連の台帳と母子カードの正確な記載方法の勉強会を実施する。
- ③ 聖ヨハネ・パウロ 2 世病院については、状況把握のために継続してデータ収集と分析を実施する。
- ④ 聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での活動
 - ・母子に対する健康教室、保健指導の実施。
 - テーマは、妊婦健診・産褥健診・新生児健診の重要性、保健医療施設で出産することの重要性について。健診に関しては、早期の受診開始と総受診回数が増加するように働きかける。

- ・医療従事者に対する、技術と知識の向上・標準化・定着のためのトレーニング実施と、マニュアルや掲示物、教材作成などを通しての体制作り。

内容は、妊婦健診、産褥健診、新生児健診、分娩時の新生児処置、分娩介助、分娩時の入院からの流れ（情報収集と助産診断）、病棟での産褥ケアと新生児ケア、産後の退院指導、新生児蘇生法講習と継続的なトレーニング、分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する器械）の使用方法和モニター判読方法など。

聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での、活動状況と効果をみて、2022 年の 2 月頃より他の 7 つの保健医療施設での普及活動を開始予定である。

2)TAHO での活動

- ・TAHO が四半期に一度、傘下の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン（巡回視察）に参加する。
- ・TAHO が年に一度開催するセミナーの準備や実施を支援する。

（3）短期

2021 年度事業計画策定の時点では具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

[3 - 2] 奨学金事業

2020 年度からの継続としてインドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニアの奨学生を支援する。2021 年度募集では、コロナ禍で影響を受けた協力団体のニーズを考慮して支援を進める。

（1）インド

協力団体の Christian Fellowship Hospital から奨学金の申請があれば対応する。また、インド政府の個人宛の海外送金規制の動向を注視する。

（2）インドネシア

故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先の病院である GKST、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く職員 12 名を引き続き支援予定である。

（3）カンボジア

カトリックプノンペン司教区下にある Catholic Community Health Services の医師 1 名の病院管理学修士号の取得を支援する。プノンペン司教区では数年後に病院建設を計画しており、その病院の管理をする人材の育成が求められている。

(4) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことがある HDCS、TLMN アナンダバン病院、UMNMDT (旧 UMN) とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者 17 名を継続して支援する予定である。支援先の病院はいずれも基礎的な人材が整いつつある。政府の政策にも掲げられている上級資格及び専門医などの人材育成が必要とされている。長期雇用が見込まれる病院職員の上級資格・専門資格取得に対しては積極的に支援する。

(5) バングラデシュ

乾眞理子元ワーカー (医師) の派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト (通称カイラクリ・クリニック) 所属のスタッフ 3 名の医療助手研修 (3 年間) を継続して支援する。いずれも働きながら 3 年間をかけて資格を取得する予定で、そのうち 2018 年度に採用した医療部門の医長代行者は 2021 年度中に資格が得られる予定である。カイラクリ・クリニックでは創立者のベーカー医師亡き後、同医師から技術を学んだ村人らが無資格のパラメディック (*) として医療サービスを担ってきたが、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。

*パラメディックとは准医療従事者の意

(6) ウガンダ

ウガンダは 1980 年代後半から 20 年以上内戦が続き、慢性的な医療人材不足の問題を抱えている。2021 年度は UPMB 傘下の 4 名を継続支援する。また、2020 年度より新たに奨学金事業の協力団体として位置づけた南ルウェンゾリ教区の 4 名も継続支援する。

* UPMB はウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステの 3 教派が連携し、302 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織。

(7) ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園の理学療法スタッフを継続して支援する。週末のパートタイムコースで 3 年間かけて理学療法学士を取得する予定である。

(8) タンザニア

雨宮春子ワーカーの派遣先である TAHO 傘下にある保健医療施設で働く 21 名を継続して支援する。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、医師補、看護・助産師、薬剤師など基礎的な分野での研修志望が多い。

雨宮ワーカーの主な活動先であり、協働プロジェクト「ママ・ナ・ムトト」の活動拠

点となる聖ヨハネ・パウロ 2 世病院の人材育成を最優先に支援する。JOCS では、TAHO の計画を尊重しながら支援をおこなう。

略語一覧

- * GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)
- * ICAHS : Indonesia Christian Association of Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)
- * HDCS : Human Development and Community Service (ネパール・キリスト教系 NGO)
- * TLMN : The Leprosy Mission Nepal (ネパール・ハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO)
- * UMNMDT : United Mission to Nepal Medical and Development Trust (ネパール合同ミッション。キリスト教系国際 NGO)
- * UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
- * TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

2021年度支援予定奨学生一覧

インドネシア (12名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
データ管理、医療記録担当者	22	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018年07月 ~ 2021年06月
看護師長	39	女	GKST Sinar Kasih Hospital	公衆衛生 (修士)	2019年07月 ~ 2021年07月
看護師	39	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2022年03月
看護師	43	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月 ~ 2022年06月
看護師	41	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月 ~ 2022年06月
病院ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月 ~ 2025年07月
医療助手	24	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月 ~ 2023年06月
病院ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月 ~ 2025年07月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月 ~ 2024年07月
病院ボランティア	19	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020年08月 ~ 2023年08月
病院ボランティア	18	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月 ~ 2025年08月
看護師・公衆衛生事業責任者	43	男	ICHAS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月 ~ 2023年09月

カンボジア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医師	36	男	Catholic Community Health Services	病院管理学 (修士)	2020年12月 ~ 2022年12月

ネパール (17名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士助手	33	女	TLMN Anandaban Hospital	理学療法学	2016年08月 ~ 2021年07月
看護師	26	男	UMNMDT Okhaldhunga Hospital	看護学	2018年08月 ~ 2022年07月
看護講師助手	33	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2018年10月 ~ 2021年10月
医師	35	女	United Mission Hospital Tansen	病理学	2019年06月 ~ 2022年06月
准看護・助産師	32	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2022年08月
歯科助手兼准看護・助産師	25	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019年11月 ~ 2022年10月
補助看護助産師	30	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2020年06月 ~ 2022年06月
看護師	23	女	UMNMDT Okhaldhunga Hospital	看護学・看護教育	2020年12月 ~ 2021年12月

2021年度支援予定奨学生一覧

臨床検査技師	29	男	HDCS Lamjung District Community Hospital	臨床検査学	2022年01月 ~ 2026年01月	*2
看護師長	45	女	United Mission Hospital Tansen	看護学 (修士)	2021年06月 ~ 2023年06月	*2
看護教師	33	女	United Mission Hospital Tansen	看護学 (修士)	2021年06月 ~ 2023年06月	*2
看護教師	57	女	United Mission Hospital Tansen	看護学 (修士)	2021年06月 ~ 2023年06月	*2
放射線技師	29	男	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	公衆衛生 (修士)	2021年08月 ~ 2023年08月	*2
医師	31	男	TLMN Anandaban Hospital	麻酔学	2021年09月 ~ 2024年09月	*2
医療助手	31	男	TLMN Anandaban Hospital	視覚科学	2021年10月 ~ 2025年10月	*2
看護師	26	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021年10月 ~ 2024年10月	*2
臨床検査技師	25	男	UMNMDT Okhaldhunga Hospital	臨床検査学	2021年12月 ~ 2025年10月	*2

バングラデシュ (3名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医長代行	35	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019年01月 ~ 2021年12月
モニタリング担当者	42	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020年01月 ~ 2022年12月
パラメディック	34	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021年01月 ~ 2023年12月

ウガンダ (8名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間	
准医師	41	男	South Rwenzori Diocese/ /Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018年08月 ~ 2021年09月	
看護助手	35	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月 ~ 2022年06月	
准看護師	28	女	UPMB Rugarama Hospital	薬学	2020年05月 ~ 2023年05月	
准看護師	31	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2020年07月 ~ 2021年12月	
准看護師	25	男	South Rwenzori Diocese/ Buhaghura Health Center III	医学	2021年07月 ~ 2024年07月	*2
准助産師	26	女	South Rwenzori Diocese/ Kanamba Health Center III	助産学	2021年07月 ~ 2022年12月	*2
医師	28	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学 (修士)	2020年08月 ~ 2023年05月	*2
准看護師	32	男	South Rwenzori Diocese/ St. Paul's Health Center IV	麻酔学	2021年08月 ~ 2023年08月	*2

ケニア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	28	男	The Garden of Siloam	理学療法学	2018年09月 ~ 2021年09月

2021年度支援予定奨学生一覧

タンザニア (21名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医療助手	26	男	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2017年09月 ~ 2021年09月
シスター、病院管理責任者	43	女	TAHO Ndala Hospital	病院管理学	2017年10月 ~ 2022年10月
シスター、医師補	37	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月 ~ 2023年08月
医療助手	33	女	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2018年09月 ~ 2021年08月
シスター、医師補	44	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月 ~ 2023年10月
医療助手	22	男	TAHO Mwanuzi Dispensary	医学	2019年09月 ~ 2023年09月
医療助手	20	男	TAHO Mwanuzi Dispensary	薬学	2019年09月 ~ 2022年09月
医療助手	25	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2019年10月 ~ 2022年10月
医療助手	24	男	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学	2019年10月 ~ 2022年10月
カルテ管理助手	27	男	TAHO St. John Paul II Hospital	データ管理	2019年10月 ~ 2022年06月
事務	34	女	TAHO Mwanuzi Dispensary	看護学・助産学	2019年11月 ~ 2022年11月
病院管理、司祭	30	男	TAHO St. John Paul II Hospital	病院管理学	2020年11月 ~ 2023年11月
病院管理、司祭	35	男	TAHO Ndala Hospital	薬学	2020年11月 ~ 2023年11月
准看護師	28	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護学	2020年11月 ~ 2021年11月
准看護師	26	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護学・助産学	2020年11月 ~ 2021年11月
医師補	27	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2020年11月 ~ 2025年11月
医療助手	21	男	TAHO St. John Paul II Hospital	臨床工学	2020年11月 ~ 2023年10月
医療助手	23	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2020年11月 ~ 2023年11月
医療助手	30	女	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2020年11月 ~ 2025年11月
医療助手	29	女	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学・助産学	2020年11月 ~ 2023年10月
医療助手	29	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護学	2021年10月 ~ 2025年10月

*1 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

*2 コロナ禍による研修開始の遅れにより、研修期間は見込みの時期

[3 - 3] 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる) (Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

ケニアとタンザニアのプロジェクトを継続実施する。コロナ禍による活動の遅延を取り戻すために1年の期間延長が決定したケニアのシロアムプロジェクトでは、2020年度には実施できなかった終了時評価をおこなう。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトでは、コロナ禍による活動の遅延を反映させた修正計画に基づき活動をする。2019年度に終了したカンボジアのSALTプロジェクトは事後評価の実施を計画している。

また、引き続き新規協働プロジェクトの発掘形成調査をする。

(1) SALT (Sokkaphheap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生)プロジェクト

対象国 : カンボジア

活動地域 : バッタバン州

プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日(終了済み)

協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター

受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生

プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

小学校、中学校を対象として、健康教育、思期教育を実施し、2019年9月をもってこのプロジェクトは終了した。JOCSの協力終了後もバッタンバン司教区では独自資源を用いて活動を継続する予定であった。また、学校における活動のみならず、村落での成人女性を対象とした健康教育も開始したいとの意向があった。協働プロジェクト終了後の自立発展性の検証のために事後評価をおこなう。

(2) シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア

活動地域 : キアンプ地方行政区 インデンデル地区

プロジェクト期間 : 2016年4月1日～2022年3月31日(6年間)

協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園

受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族

プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため、通常の療育が一時中止となり、終了時評価も見送ったため、プロジェクトは2021年度(2022年3月31日)まで延長となった。シロアムの園は施設での療育活動に加え、スタッフの能力強化、子どもの認知機能や

発達能力を測るアセスメントツールの強化、移転先の新施設の建築に取り組む。JOCSではプロジェクト終了に向けて通常のモニタリング調査に加え、終了時評価を実施し、6年間の活動成果やプロジェクト目標の達成状況を総括する。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

- 対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州 タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018年4月～2023年3月(5年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHOとその傘下の9の保健医療施設(病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

対象保健医療施設への今後の普及を目指し、最初にパイロットプロジェクトとして聖ヨハネ・パウロ2世病院において以下の活動をおこなう。分娩の取り扱いがある8つの保健医療施設の基礎調査からの分析結果をもとに策定した活動計画に基づき実施する。

- 1) 母親を対象とした継続的な出生前、出生後健診の受診啓発と健康教室
 - ①妊娠期、産褥期の保健指導(個別)の実施
 - ②健康教室(保健指導)の実施
 - 2) 現地トレーニング、セミナー、スーパービジョン(巡回指導)による保健医療従事者の知識と技術の向上
 - ①基礎調査結果からわかった課題を知るためのセッション
 - ②台帳・母子カードの正確な記載方法のトレーニング
 - ③妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期のケアのトレーニング
- 活動内容及びスケジュールは、雨宮ワーカーの現地帰任時期にあわせてTAHO及び雨宮ワーカーと協議の上、病院の状況を踏まえて柔軟に調整する。

[3-4] 災害救援復興支援

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対処するための支援要請には、2021年度も引き続き応えていく。また、新型コロナウイルス感染症以外の自然災害での災害救援への支援要請があった場合にも、要請に基づき支援を検討する。

4. 国内諸活動

新型コロナウイルス感染予防のため、国内での諸活動も制約があるが、各種活動のオン

ラインでの実施、在宅での実施など、有効な代替手段を検討して活動を進める。

フィールドセミナーやスタディツアーなど、開催方法の代替が難しい活動は、2021年度は実施せず、将来の実施にむけての準備のみおこなう。

[4 - 1] 国際保健人材育成

(1) 国際保健医療勉強会

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を発掘し、育成するために各種人材育成活動を行う。

フィールドセミナーとスタディツアーは活動の実際を見て学べる機会であるが、2021年度はコロナウイルス感染予防のため、実施を見送ることとした。国際保健医療勉強会のみ、居住地にかかわらず参加できるというオンライン実施のメリットを活かしながら、実施する。

[4 - 2] 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、活動をおこなう。2021年度は、新型コロナウイルス感染予防のために、事務局やイベントにおけるボランティア活動を抑制せざるを得ない。これまで一カ所に集まったり、対面でおこなってきた活動をオンラインや在宅で実施することで、できるだけ継続していく。

(1) 使用済み切手運動

新型コロナウイルスの感染防止のため、状況が好転するまで、切手整理ボランティア活動を休止とする。再開後は、これまでどおり、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせておこなっていく。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウヒロシマ 2021 2021年6月（広島県立産業会館）

2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

切手整理ボランティア活動再開後、JOCSの書き損じハガキ収集の強化月間を設け、ホームページ等の広報を通じて、書き損じハガキキャンペーンをおこなう。

(2) 地区JOCS活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知各地区において、新型コロナウイルス感染状況を考慮しつつ、支援者グループによる使用済み切手整理や地域のイベント

出展、チャリティコンサートなどの催し物が実施される予定である。各地区の催し物等への支援をおこなう。

(3) 関西バザー

バザーを企画・実施するボランティアの方々が、新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら開催を検討する。開催する場合には JOCS が協力する。

(4) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。毎年派遣の依頼を受けるところでは、前年度の講師派遣の記録を確認し、講話内容の重複を避ける。

保健医療系の学校等から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に、講師を依頼する。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる講話や、視聴覚データの送付の依頼にも適宜対応できるよう、準備をする。

(5) 事務局訪問受入

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、基本的には事務局訪問の受け入れはおこなわない。ただし、要望に応じて、アジア・アフリカの保健医療事情や JOCS の保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を、オンラインで提供する。

(6) 視聴覚資料

希望者に活動紹介 DVD、写真パネルの貸し出しをおこなう。

また、活動紹介 DVD は、インターネットで視聴できるように、ホームページに動画形式で掲載する。動画形式で掲載する DVD は、以下のとおりである。

「JOCS 活動紹介」「アサンテ サーナ タンザニアにまかれた種」、「カシナマジパン」、「心をひらいて」、「アジアの呼び声に応じて」、「はるかなるネパールの村へ」、「使用済み切手でアジアに医療協力を」

また、各種イベント（オンライン含む）で「JOCS 活動紹介」の放映を積極的に呼びかけ、JOCS の活動を広く知らせる。

(7) 国際協力イベント参加

例年出展していたグローバルフェスタ JAPAN（東京）、ワン・ワールド・フェスティバル（関西）は、新型コロナウイルス感染拡大により、2021 年度の開催は未定である。オンラインでの開催も含み、開催が決定したら準備を進め、JOCS の認知度を高める機会とする。

(8) ネットワーク活動

2021年度も「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

また、JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」への参加と「NGO 非戦ネット」「『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！』連絡会」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(9) 創立 60 周年記念事業

記念事業として、啓発のための絵本を作成する。絵本は 2020 年度に作成を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のために作成を延期していた。2021 年度に機関誌「みんなで生きる」増刊号として作成する。

[4 - 3] マーケティング

コロナ禍で対面の活動が制限される中、会報誌やホームページなどによる広報を通して、支援者に継続的に活動の進捗を伝えるようにする。これらの活動を支えるためにも、プレスリリースの活用、ホームページやパンフレット類の改善、物語データベースの構築を進める。また、オンラインのマーケティング手法を、コロナ禍の収束後も活用できるよう、ノウハウを蓄積する。

(1) 会報誌「みんなで生きる」

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るために、年 7 回（偶数月 10 日と子ども号）発行する。

海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動報告では、現地の協力団体や共に生きる人々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動、地区 JOCS の活動の案内・報告や、国内の支援者の声も掲載する。

(2) 年次報告書

6 月に A4 版の冊子形態で発行する。会員と、過去 5 年以内に寄付のあった支援者に会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

支援者に 1 年間の活動について報告し、会費・寄付の使われ方を知ってもらうと共に、支援を継続してもらうことを目指す。

毎年受け取る支援者に飽きさせないページ構成とする。また、現地受益者、協力団体スタッフやワーカーが共に生きる人々、日本国内の支援者の声を多く掲載する。

(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動であるプレスリリース配信サービスの無償提供プ

プロジェクトを活用し、プレスリリースを定期的におこなう。そのために事務局内体制を整える。

(4) 雑誌広告

キリスト教共感層に対して JOCS の認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しく支援者となってもらうために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』に 1 ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広告とする。現地の受益者の声などを中心に掲載する。

また、JOCS 支援者層と購読者層が重なると思われる婦人之友社発行の『婦人之友』誌に、2020 年度に引き続き広告を掲載し、新たな支援者獲得を目指す。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのこことば社直営のキリスト教書店で、店舗内ポスター掲示（東京店）と書籍購入者へのチラシ配布（東京、大阪、通販部）をおこなう。また新型コロナウイルス感染症の状況が許せば店頭での活動紹介イベントをおこなう。

また、聖パウロ会の運営する書店「サンパウロ」や、ほかの各地のキリスト教書店でチラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかけ、実施する。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCS の認知度を上げるとともに新規支援者獲得を目指す。

(6) 教会訪問

新型コロナウイルス感染症収束後あるいはオンラインでの教会訪問に向けて、理事や希望する会員に対して、活動報告会の講習をオンラインで実施する。

(7) 募金

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書を同封して支援者に送付する。

冬期募金については、募金趣意書を、支援者に送付する。例年送付先としていた使用済み切手寄付者については、2020 年度は切手収集活動を休止しており送付者データがないため送付しない。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

(8) 遺贈

2020 年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCS の活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内する。

(9) 物語データベースの作成

2020年度に作成した物語データベースに、物語の内容にあった写真を登録する。また、データベースの運用方法について検討する。

5. 運営体制

公益法人としての責任を果たしながら、JOCSの使命に邁進できるよう総会、理事会、委員会、事務局の体制を整える。

[5-1] 社員総会

第60回定時社員総会を、2021年6月12日(土)に日本キリスト教海外医療協力会の東京事務局会議室にて開催する。会員には、新型コロナウイルスの感染防止のため、第59回と同様、書面による出席を呼びかける。その他、オンラインによる意見交換をおこなう予定。

[5-2] 理事会

2021年度は年7回開催する予定である。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎(会長)、大友宣(常務理事)、植松功、小宅泰郎、川北かおり、
久保礼子、名取智子、本田まり、森田隆、柳澤理子

監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5-3] 委員会

(1) 財務委員会

委員長：大友宣 副委員長：羽山信輝

委員：飯田多香子(事務局)、小池宏美(事務局)

2021年度も、予算が適切に執行されているかどうかを確認していく。新型コロナウイルス感染の収束がなかなか見込めない状況では、活動計画も変更を余儀なくされる。年度半ばには補正予算案を協議し、理事会に提出する予定である。

次年度予算案作成は従来委員会で2回協議をおこなってきた。しかし、年度途中に補正することを前提に、2021年度予算は2020年度に1回の協議で作成、提出した。2022年度予算作成の際は、1回の協議にしたことの評価をした上で検討していく

(2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：澤田和美、細谷たき子、宮崎雅、石金祐実(事務局)、滝澤さおり(事務局)、
竹内里佳(事務局)

奨学金事業の目的に則り、研修終了後にその地域に長くとどまり、住民の健康の維持、

増進のために働きたいと願う人材であるか、研修内容が地域の保健医療事情の向上に資するものであるか、研修内容が地域の緊急性やニーズにあっているかなどを考慮し、奨学生の選考をおこなう。

2022年度奨学生の募集に先立ち、奨学金事業の協力団体など奨学生選考の方針について協議をおこなう。また、新型コロナウイルス感染拡大等の不測の事態を理由とした変更等が生じた場合、必要に応じて協議をおこなう。

(3) 地区ボランティア活動委員会

委員長：久保礼子 副委員長：東岡牧

委員：川北かおり、川島泉、宮川眞一

- ・2ヵ月に一度の頻度で委員会を開催する。コロナ禍においては、オンラインで開催する。
- ・理事会からの諮問に対して、具体的な提言をおこなっていく。

[5 - 4] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、高橋淳子、滝澤さおり、
竹内里佳、森田真実子

関西事務局